

SOFTWARE JAPAN 2013

# BigData

ビッグデータの潮流を探る

日時 2013年2月15日(金) 9:30~18:30

会場 一橋大学 一橋講堂会議室  
学術総合センター 国立情報学研究所 (東京・千代田区)

**時間** ■ ITフォーラムセッション [会場：各会場]

- [09:30~12:00] サービスサイエンスフォーラム×JUAS×JST社会技術研究開発センター(1F 特別会議室 101-103一体)  
IPA/SEC 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター(2F 中会議場1)  
高度IT人材育成フォーラム(2F 中会議場2)  
コンタクトセンターフォーラム(2F 中会議場3)  
ITダイバーシティフォーラム(2F 中会議場4)  
JISA 情報サービス産業協会(2F 会議室 201-203一体)  
JEITA 電子情報技術産業協会 (国立情報学研究所 12F 会議室 1208)  
AITC先端IT活用推進コンソーシアム(国立情報学研究所 12F 会議室 1210)

■ メインセッションプログラム [会場：2F 一橋講堂]

- [13:00~13:05] Opening  
[13:05~16:20] 第1セッション [キーノートセッション]  
[16:30~17:40] 第2セッション [パネルセッション]  
[17:50~18:25] 第3セッション [ソフトウェアジャパンアワードセレモニー]  
[18:25~18:30] Closing

■ ITフォーラム展示 [会場：2F 一橋講堂前]

- [13:00~18:30] ユニバーサルデザイン協創フォーラム

■ 情報交換会(懇親会)/デジタルプラクティスアワード表彰式 [会場：3F 食堂]

- [18:40~20:15]

**会場** 一橋大学 一橋講堂会議室/学術総合センター 国立情報学研究所 [東京都千代田区一ツ橋2-1-2]

**主催** 一般社団法人 情報処理学会

**協賛** 一般社団法人 情報サービス産業協会, 一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会,  
一般社団法人 電子情報技術産業協会, 先端IT活用推進コンソーシアム, 一般社団法人 電子情報通信学会,  
一般社団法人 日本ソフトウェア科学会

**後援** 文部科学省, 経済産業省, 総務省, 独立行政法人 情報処理推進機構

## SPONSORS

独立行政法人情報処理推進機構

**IPA**

株式会社日立製作所

**HITACHI**  
Inspire the Next

富士フイルム株式会社

**FUJIFILM**  
富士フイルム株式会社  
富士フイルム ソフトウェア株式会社

日本電気株式会社

Empowered by Innovation

**NEC**

三菱商事株式会社

**三菱商事**

富士通株式会社

**FUJITSU**

shaping tomorrow with you

記載の名称・ロゴは、各社・団体の商標です。掲載は申込み順です。

<http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2013>

# 会場アクセス

## ソフトウェアジャパン2013会場

一橋大学 一橋講堂会議室

学術総合センター 国立情報学研究所

12F 1208/1210

[東京都千代田区一ツ橋 2-1-2]

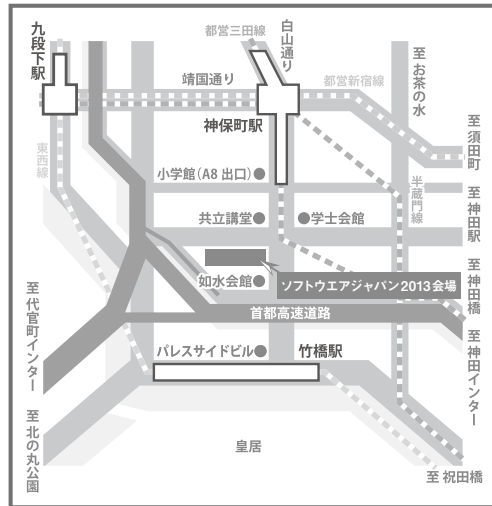
最寄駅：東京メトロ半蔵門線

都営地下鉄三田線・新宿線

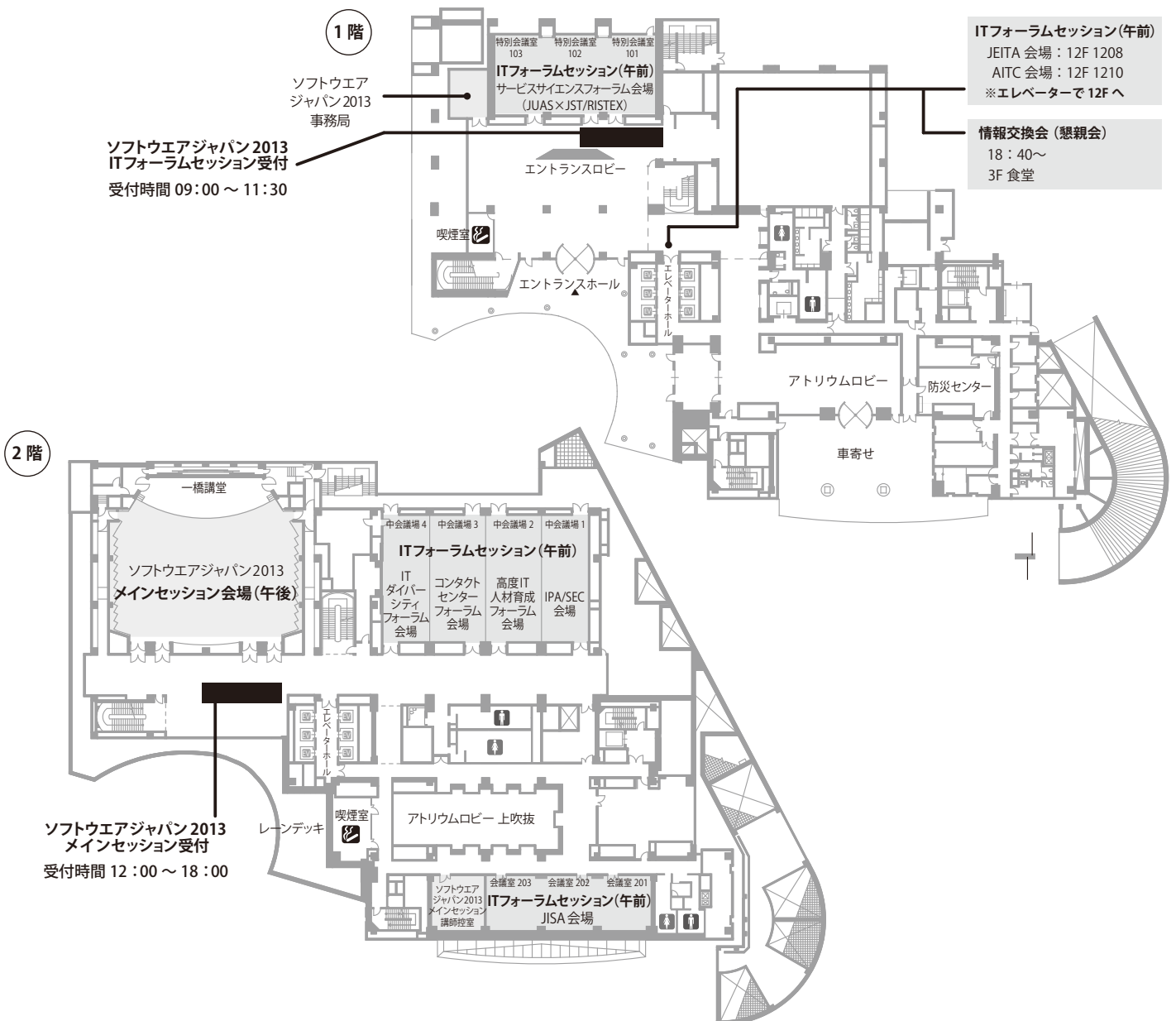
「神保町」A8 出口 徒歩3分

東京メトロ東西線

「竹橋」1b 出口 徒歩4分



# 館内案内図



## ソフトウェアジャパン2013 参加者への注意事項

- 昼食場所はpp.17~18をご覧ください。
- 当施設は全館禁煙となっております。喫煙は1F、2Fの喫煙室にてお願いいたします。
- 一橋講堂以外のお部屋での飲食は可能となっております。但し共有部(ロビー・廊下・階段等)では飲み物のみ可能です。
- 館内では、ソフトウェアジャパン2013のネームタグを携帯いただきますようお願いいたします。
- 昼食等で、一時館外に外出される際にも必ずソフトウェアジャパン2013のネームタグを携帯いただき、再入館の際には、警備にネームタグをご提示いただきますようお願いいたします。
- 手荷物、PC、貴重品等は各自で管理していただきますようお願いいたします。

# BigData ビッグデータの潮流を探る

## タイムテーブル

### 【午前】ITフォーラムセッション

09:30 ~ 12:00	一橋大学 一橋講堂会議室						国立情報学研究所	
	1F 特別会議室 101-103 一体	2F 中会議場 1	2F 中会議場 2	2F 中会議場 3	2F 中会議場 4	2F 会議室 201-203 一体	12F 会議室 1208	12F 会議室 1210
	サービス サイエンスフォーラム × JUAS(関連団体) × JST/RISTEX(関連団体)	IPA/SEC (関連団体)	高度 IT 人材育成 フォーラム	コンタクト センター フォーラム	IT ダイバー シティ フォーラム	JISA (関連団体)	JEITA (関連団体)	AITC (関連団体)

### 【午後】メインセッション

一橋大学 一橋講堂会議室 2F 一橋講堂	
13:00 ~ 13:05	Opening
13:05 ~ 16:20	第1セッション [キーノートセッション]
16:30 ~ 17:40	第2セッション [パネルセッション]
17:50 ~ 18:25	第3セッション [ソフトウェアジャパンアワードセレモニー]
18:25 ~ 18:30	Closing

※展示:ユニバーサルデザイン協創フォーラム [一橋講堂前]

### 【夜】情報交換会(懇親会)

#### デジタルプラクティスアワード表彰式

一橋大学 一橋講堂会議室 3F 食堂	
18:40 ~ 20:15	情報交換会(懇親会) デジタルプラクティスアワード表彰式

## メインセッション プログラム (13:00 ~ 18:30) [会場:2F 一橋講堂]

総合司会:中野美由紀 (ITフォーラム推進委員会 委員長/東京大学 生産技術研究所 戦略情報融合国際研究センター 特任教授)

<b>13:00 ~ 13:05</b>	<b>Opening</b>
岩野和生 (ソフトウェアジャパンプログラム委員会 委員長/三菱商事 (株) ビジネスサービス部門 顧問)	
<b>13:05 ~ 16:20</b>	<b>第1セッション [キーノートセッション]</b>
13:05 ~ 13:50	招待講演 (1): ビッグデータの深層 喜連川優 (東京大学 生産技術研究所 教授)
13:55 ~ 14:40	招待講演 (2): "Join & Share" で創るこれからの天気予報 石橋知博 ((株) ウェザーニューズ 取締役 (アメリカ販売統括主責任者, BtoS 事業全般))
14:45 ~ 15:30	招待講演 (3): ビッグデータのハイブカーブに見えるもの: 音声対話と大規模人口動態推定を例として 柴藤 稔 ((株) NTT ドコモ 執行役員 研究開発推進部 部長/ DOCOMO Innovations (米国パロアルト) 社長)
15:35 ~ 16:20	招待講演 (4): BIG DATA or DEEP DATA 前田泰宏 (経済産業省 製造産業局 自動車課 課長)
<b>16:30 ~ 17:40</b>	<b>第2セッション [パネルセッション]</b>
パネル討論: ビッグデータ時代の挑戦 ~新しい価値と産業創成に向けて~ 司 会: 岩野和生 (ソフトウェアジャパンプログラム委員会 委員長/三菱商事 (株) ビジネスサービス部門 顧問) パネリスト: 石橋知博 ((株) ウェザーニューズ 取締役 (アメリカ販売統括主責任者, BtoS 事業全般)) 柴藤 稔 ((株) NTT ドコモ 執行役員 研究開発推進部 部長/ DOCOMO Innovations (米国パロアルト) 社長) 前田泰宏 (経済産業省 製造産業局 自動車課 課長) 樋口知之 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所 所長)	
<b>17:50 ~ 18:25</b>	<b>第3セッション [ソフトウェアジャパンアワードセレモニー]</b>
17:50 ~ 17:55	ソフトウェアジャパンアワード 表彰式
17:55 ~ 18:10	受賞スピーチ (1): 大規模データをより深く・より速く分析する技術 西川 徹 ((株) Preferred Infrastructure 代表取締役社長 最高経営責任者)
18:10 ~ 18:25	受賞スピーチ (2) ・初音ミクという「場」 伊藤博之 (クリプトン・フューチャー・メディア (株) CEO/メタクリエイター) ・タイトル未定 戀塚昭彦 ((株) ドワンゴ ニコニコ事業統括本部 プラットフォーム事業本部 第三企画開発部 第五開発セクション)
<b>18:25 ~ 18:30</b>	<b>Closing</b>
丸山 宏 (ソフトウェアジャパンプログラム委員会 副委員長/大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所 教授)	

# ITフォーラムセッション

09:30～12:00	サービスサイエンスフォーラム×JUAS×JST 社会技術研究開発センター 「サービスサイエンスの勘所～お客様は誰ですか、そのお客様の期待は何ですか～」	1F 特別会議室 101-103 一体
<p><b>【セッション概要】</b> 今年もサービスサイエンスフォーラムは、「JST 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター」と「JUAS 日本情報システム・ユーザー協会」との合同開催です。世の中のサービスを観察すると、サービス内容には知恵を絞り改善が進んでいますが、「お客様は誰なのか」は、あまり議論がなされていません。サービスに対するお客様の期待は千差万別なのに、すべてのお客様にハイレベルな一律サービスを提供して満足してもらおうとしているのが実態です。本セッションでは、サービスのもっとも大切な要素であるお客様についての議論を深めたいと思います。</p>		
09:30～09:35	オープニング	
09:35～10:05	講演 (1): 訪日旅行者は日本での観光に何を期待しているか?～個別適応型の観光プランニングに向けて～ 原 辰徳 (東京大学 人工物工学研究センター 講師)	
10:05～10:35	講演 (2): システム開発サービスのお客様とお客様中心のプロセス品質について 山本政樹 ((株) エル・ティー・エス 業務変革支援部 シニアマネージャー)	
10:35～11:05	講演 (3): 勝負は、お客様が買う前に決める!～ソーシャルメディアを活用した事前期待のマネジメント～ 柴崎辰彦 (富士通 (株) システムインテグレーション部門 戦略企画室長)	
11:10～12:00	パネル討論: サービスサイエンスの勘所～お客様は誰ですか、そのお客様の期待は何ですか～ 司 会: 門倉純一 (一般社団法人 CRM 協議会 理事) パネリスト: 原 辰徳 (東京大学 人工物工学研究センター 講師) 山本政樹 ((株) エル・ティー・エス 業務変革支援部 シニアマネージャー) 柴崎辰彦 (富士通 (株) システムインテグレーション部門 戦略企画室長) 諏訪良武 (ワクコンサルティング (株) エグゼクティブコンサルタント 常務執行役員)	

09:30～12:00	IPA/SEC 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 「データに基づくソフトウェア開発・運用マネジメント」	2F 中会議場 1
<p><b>【セッション概要】</b> 信頼性の高いソフトウェアを効率よく開発し、安心して使い続けられるように運用するためには、開発や運用に付随するさまざまなデータを収集し、それらの分析結果を適切にフィードバックすることが重要です。具体的には、(1) 進捗状況のモニタリングによる、異常の予兆検知と早期対処、(2) 現在のデータと過去の蓄積データとの比較による、適切な計画策定及び現況の妥当性確認、(3) ソフトウェア開発・運用リポジトリに蓄積される定性・定量データのマイニングによる、有用な知見の抽出、が挙げられます。本セッションでは、このようなデータに基づくソフトウェア開発・運用のマネジメントに関し、IPA/SEC における取組みと成果、及びソフトウェアリポジトリマイニングに関する内外の取組み動向等について紹介します。</p>		
09:30～09:35	本セッションの趣旨説明 柏木雅之 ((独) 情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)	
09:35～10:15	講演 (1): 現在のデータと過去の蓄積データとの比較に基づく定量的品質管理 三毛功子 ((独) 情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)	
10:15～10:55	講演 (2): ソフトウェア開発データの見える化に基づく定量的プロジェクト管理 大和田裕 ((独) 情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)	
11:00～12:00	講演 (3): ソフトウェアリポジトリマイニングの技術動向とその応用 門田暁人 (奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授)	

10:00～12:00	高度 IT 人材育成フォーラム 「情報システムユーザーの期待に応える高度 IT 資格制度の創設に向けて」	2F 中会議場 2
<p><b>【セッション概要】</b> IT (情報技術) は社会的なインフラとして、またビジネスモデルや業務を革新するツールとして重要性を高めている。これらを支える高度な人材を育成するためには、人材像を明確にするとともに、高い能力を持った人材を適切に評価・処遇する必要がある。情報処理学会は、高度な情報系人材の能力を評価するための「物差し」として、IT スキル標準や国際的な通用性も考慮した高度 IT 資格制度「情報処理学会モデル」を提案した。本シンポジウムでは、主に情報システムユーザーの視点から高度 IT 資格制度に対する期待および期待を満たすための方策について議論を行う。</p>		
10:00～10:20	講演 (1): 情報処理学会の高度 IT 資格制度 旭 寛治 ((株) 日立製作所 情報・通信システム社経営戦略室)	
10:20～10:40	講演 (2): 高度 IT 資格制度の創設に向けた取り組みの現状と課題 掛下哲郎 (佐賀大学 工学系研究科 准教授)	
10:40～11:10	講演 (3): 高度 IT 資格制度に対する情報システムユーザーの期待 角田千晴 (一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 事業企画推進部長)	
11:10～12:00	パネル討論: ユーザーの期待に応える高度 IT 資格制度とは 司 会: 旭 寛治 ((株) 日立製作所 情報・通信システム社経営戦略室) パネリスト: 掛下哲郎 (佐賀大学 工学系研究科 准教授) 角田千晴 (一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 事業企画推進部長) 西 直樹 (日本電気 (株) 中央研究所 グリーンプラットフォーム研究所 所長)	

<b>コンタクトセンターフォーラム</b> <span style="float: right;">2F 中会議場 3</span>	
09:30 ~ 12:00	<b>「経営に貢献するコンタクトセンター ～経営視点と従業員視点の双方向からのあるべき姿とは?～」</b>
<b>【セッション概要】</b> デフレ状況が続き、企業の成長が厳しい環境下において、コンタクトセンターは現在でも、コスト削減の対象部門となり、サービスレベルの低下や要員減員の状況となっているセンターが多い、コンタクトセンターが常にコスト削減対象となるのは、企業内においてコンタクトセンターの経営貢献度合いが明確でなく、また、顧客対応の最前線と言われながらも、重要な機能として認識されていないためである。当セッションでは、コンタクトセンターが経営貢献を実現するためのポイント（講演（1））と従業員の価値観が多様化する中、従業員満足度と経営的貢献とをいかに整合させるか？（講演（2））について事例を交えてご紹介し、経営貢献について、経営視点と従業員視点の双方向からそのあるべき姿について広範な議論を展開する（パネル・ディスカッション）。	
09:30 ~ 09:35	オープニング
09:35 ~ 10:05	講演（1）：コンタクトセンターの経営貢献～経営貢献度目標と従業員の努力目標との整合性は？～ 田口 浩（（株）東京海上日動コミュニケーションズ執行役員）
10:10 ~ 10:40	講演（2）：コンタクトセンターは人が全て～多様化する従業員の価値観と経営貢献との両立は？～ 小柳津誠（伊藤忠アーバンコミュニティ（株）お客様サービスセンター営業担当役員補佐／お客様サービスセンター長）
10:50 ~ 12:00	パネル討論：経営に貢献するコンタクトセンター ～センターの実情と経営視点と従業員視点の双方向からのあるべき姿とは?～ 司 会：宮崎義文（イー・パフォーマンス・ネクスト 代表） パネリスト：田口 浩（（株）東京海上日動コミュニケーションズ 執行役員） 小柳津誠（伊藤忠アーバンコミュニティ（株）お客様サービスセンター営業担当役員補佐／お客様サービスセンター長） 増田由美子（（株）消費者の声研究所 代表取締役） 寺下 薫（ヤフーカスタマーリレーションズ（株）カスタマーエクスペリエンス部品品質推進部 教育研修チーム トレーニングマネージャー）

<b>ITダイバーシティフォーラム</b> <span style="float: right;">2F 中会議場 4</span>	
09:30 ~ 12:00	<b>「IT makes us happy! ～ITで楽しくしなやかに生きる!～」</b>
<b>【セッション概要】</b> ITは重要な社会インフラであることは疑いようがありません。昨今は、システムが大規模化し、複雑化し、セキュリティ、業務継続性、運用保守性などの側面が重要視されています。ITを用いて、安心・安全で信頼性の高い社会の実現につなげるのは、情報処理学会の使命であり、情報処理の技術者が取り組むべき事柄です。しかし、取り組む一人一人のモチベーションが下がったままでは使命達成も加速しません。私たちが楽しくいきいきとチャレンジできることが重要だと考えます。本セッションでは、ITを通じたビジネスやサービス提供にかかわる方々にご登壇いただき、ITは人と人をつなげ、生活を豊かにしてくれる手段であることを再認識し、私たちが毎日をいきいきとしなやかに生きるためのヒントについて考えてみます。	
09:30 ~ 10:10	講演（1）：プチデータの時代～ビッグデータ解析に求められるダイバーシティ 宇野晶子（（株）資生堂 お客様センター 次長）
10:10 ~ 10:50	講演（2）：IT部門主導によるデジタルマーケティングとダイバーシティ 長谷川秀樹（（株）東急ハンズ 執行役員 IT コマース部長）
10:50 ~ 11:30	講演（3）：情報通信技術を用いた音楽療法 小杉尚子（NTT コミュニケーション科学基礎研究所 研究主任）
11:30 ~ 12:00	総合ディスカッション 司会：位野木万里（東芝ソリューション（株）IT技術研究所 研究開発部 研究主幹）

<b>JISA 情報サービス産業協会</b> <span style="float: right;">2F 会議室 201-203 一体</span>	
09:30 ~ 12:00	<b>「プロジェクト健全化への提案」</b>
<b>【セッション概要】</b> 情報システム開発のプロジェクト運営、技術力向上に資するため、JISA（一般社団法人情報サービス産業協会）が独自に開発した「プロジェクト健全性評価指標」と、国内規格化に取り組んでいるISO/IEC 29110「小規模組織のソフトウェアライフサイクル」を紹介する。	
09:30 ~ 10:30	講演（1）：プロジェクトを健全化に導く「健全性評価指標」 後藤卓史（（株）構造計画研究所 品質保証センター PM 支援室）
10:45 ~ 11:45	講演（2）：小規模組織の信頼性向上に資するVSEソフトウェアプロセス規格とその適用 伏見 諭（東海大学 教育情報センター 講師）
11:50 ~ 12:00	JISA 技術委員会の紹介 鈴木律郎（一般社団法人情報サービス産業協会 企画調査部 次長）

09:30 ~ 12:00	<b>JEITA 電子情報技術産業協会</b> 「ICT が実現する近未来のワークスタイル」	国立情報学研究所 12F 会議室 1208
<p>【セッション概要】 ユビキタス／モバイルによる企業内ワークスタイルの革新が進む一方、ソーシャルメディアを主なワークプレイスとした個人（フリーランス）の増加によって「働き方」のあり方が大きく変容しつつある。本セッションでは、企業と個人の視点から、ビジネスにおける ICT を駆使したコミュニケーション環境について議論する。また、ICT の進化に伴い時と場所を選ばずに仕事をする機会が増えていることを受け、企業と個人のワークプレイスの融合も視野に入れた近未来のワークスタイルを提言する。</p>		
09:30 ~ 12:00	<p>パネル討論：ICT が実現する近未来のワークスタイル          司 会：斎藤敦子（コクヨ（株）RDI センター（研究開発部門）主幹研究員／WORKSIGHT 編集長）          パネリスト：妹尾 大（東京工業大学 大学院 社会理工学研究科 准教授）          佐々木哲也（（株）富士通総研 産業事業部 シニアコンサルタント）</p>	

09:30 ~ 12:00	<b>AITC 先端 IT 活用推進コンソーシアム</b> 「ビッグデータが導く「知識から行動へ」実証プロジェクトのご紹介」	国立情報学研究所 12F 会議室 1210
<p>【セッション概要】 先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）では 5 部会が連携し、「Project LA（Leads to Action）」に取り組んでいます。Project LA では収集した情報を知識化し、行動を促すシステム「System LA」として、クラウド基盤上のビッグデータに人々が意味付けし、System LA が機械的に構造化・解析することで個人化した知識を提示し、一人ひとりの行動が促されることを目指しています。本日は、プロトタイプを含めて「Project LA」についてご紹介します。</p>		
09:30 ~ 09:40	<p>オープニング          田原春美（AITC 副会長、運営委員会議長／ドリーム IT21）</p>	
09:40 ~ 10:15	<p>講演（1）：Project LA の概要紹介          牧野友紀（AITC コンテキスト・コンピューティング研究部会 リーダー／日本ユニシス（株））</p>	
10:15 ~ 10:45	<p>講演（2）：Project LA プロトタイプご紹介          高岡大介（AITC コンテキスト・コンピューティング研究部会 メンバー／（独）産業技術総合研究所）</p>	
10:45 ~ 11:15	<p>講演（3）：バックエンドの技術解説          荒本道隆（AITC クラウド・テクノロジー研究部会 リーダー／アドソル日進（株））</p>	
11:15 ~ 11:45	<p>講演（4）：Project LA にかける夢          松山憲和（AITC ユーザーエクスペリエンス技術部会 リーダー／PFU ソフトウェア（株））</p>	
11:45 ~ 12:00	<p>Q&amp;A</p>	

## ITフォーラム展示

13:00 ~ 18:30	<b>ユニバーサルデザイン協創フォーラム</b> 「見えなくても中身がわかる!! バーコードを用いた視覚障害者向け商品案内」	2F 一橋講堂前
<p>【展示概要】 相方が仕事のあいだ留守番しているとき、あるいはひとり暮らしの方、下宿している学生さん！ まとめ買いしてきた商品や、棚の奥にしまってあった缶詰め、いままさに空けようとしているペットボトルの中身、インスタントラーメンの味が、空ける前になんとかかわかったら、生活が楽しくなると思いませんか。バーコードを読み取って、視覚に障害のある人に音声で知らせるプロジェクトをはじめ、と聞いたら、「どこにバーコードが印刷されているか分からないだろうから、ひとりで読むのは無理じゃないの？」と思いますよね。会場にデモソフトを用意していますので、視覚に障害のある方もない方もぜひいらして体験してみてください。また、腕に自信のある方、ぜひフォーラムに参加して、ソフト開発にご協力ください。 [フォーラム代表：菟川友宏（筑波大学）]</p>		

# BigData

## ビッグデータの潮流を探る

今日、インターネット上のデータは言うに及ばず、携帯電話、ICカード等の個人生活に必要なデジタル機器から商業活動、交通、電気、水道、ガスなど社会基盤も含め、我々の社会活動と連動して膨大なデジタルデータが生み出されています。大震災時の教訓からも分かるように、これらの多種多様かつ膨大なデータを基に、即時の分析、適時に価値ある情報の生成が強く望まれています。2012年の3月には米国政府にて「Big Data Initiative」が謳われ、膨大なデータの管理技術、先端分析処理技術の開発、データから生み出される新たな科学的知見や社会への還元、さらにはビッグデータに対応できる人材育成などが推進されています。あらゆる人の営みがグローバル化するなか、「ビッグデータの潮流」は大きく広がっています。

企業においても情報（データ）の価値はますます高まり、蓄積されたデータから従来の利用に加え、異なる視点からの活用、それを基にしたさまざまなビジネスへの展開が望まれています。また、ソーシャルコンピューティング、クラウドコンピューティングに見られるように、ビッグデータ時代のデータ利活用はデータ資源を共有することで新たな価値を生み出す可能性を秘めています。

ソフトウェアジャパン2013では、ビッグデータの世界的潮流と日本におけるこれからの動向に焦点をあて、当会の連続セミナー「ビッグデータとスマート社会」、実務家向けに季刊で発行している「デジタルプラクティス」誌の特集「ビッグデータに備える（2013年1月発行）」と連携し、ビッグデータの課題と実情を議論していきます。

一般社団法人 情報処理学会

### メインセッション [会場：2F 一橋講堂]

#### 総司会



**中野美由紀** (ITフォーラム推進委員会 委員長 / 東京大学 生産技術研究所 戦略情報融合国際研究センター 特任教授)  
**【略歴】** 東京大学理学部情報科学科卒業。博士(情報理工学)。富士通(株)勤務。1985年7月東京大学生産技術研究所助手(2004年助教)。2008年7月特任准教授。データベースシステム、ストレージシステム、データ工学の研究に従事。IEEE、電子情報通信学会、情報処理学会、ACM、日本データベース学会各会員。

5

#### 13:00 ~ 13:05 Opening



**岩野和生** (ソフトウェアジャパンプログラム委員会 委員長 / 三菱商事(株) ビジネスサービス部門 顧問)  
**【略歴】** 現在、三菱商事(株) ビジネスサービス部門顧問。(独) 科学技術振興機構 CRDS 上席フェロー。2012年まで、日本アイ・ビー・エム(株) 執行役員未来価値創造事業担当。1975年東京大学理学部数学科卒業後、日本アイ・ビー・エム(株) 入社。1987年米国Princeton大学 Computer Science 学科より Ph.D 取得。1995年から2000年まで東京基礎研究所所長。その後、米国ワトソン研究所を経て、2002年より先進事業(Emerging Business)、2004年より大和ソフトウェア開発研究所所長を担当し、2009年より現職。東京工業大学、筑波大学客員教授。情報処理学会フェロー、日本学術会議連携会員。IEEE、ACM、SIAM 会員。

#### 13:05 ~ 16:20 第1セッション [キーノートセッション]

##### 13:05 ~ 13:50 招待講演(1)：ビッグデータの深層

**【講演概要】** ビッグデータに関する最近の動きと、その展望について述べる。ビッグデータがもたらすもの。スモールデータで何が悪い？サイエンスとビジネスへのインパクト等について考えたい。



**喜連川優** (東京大学 生産技術研究所 教授)  
**【略歴】** 東京大学工学系研究科情報工学専攻卒。工学博士。東京大学生産技術研究所教授、戦略情報融合国際研究センター長、東京大学地球観測データ統融合連携研究機構長、国立情報学研究所所長特別補佐。文部科学省科学官(2008~2011)、情報処理学会副会長(2008~2009)、電子情報通信学会副会長(2011~2012)、学術会議会員(第22期)(2011~)。

## 13:55～14:40 招待講演(2): “Join & Share”で創るこれからの天気予報

**【講演概要】** “ウェザリポーター”という集合知 (= これまでになかった気象情報におけるビッグデータマネジメント) の結果, 「予測は不可能」と言われたゲリラ雷雨予報が「可能」になった。自助・共助による“減災”をキーワードに, 利用者参加型のさまざまな事例から, 気象情報が物理学(数値予報)の世界からコンテンツサービス, そしてソーシャルのレイヤーへパラダイムシフトするその過程や戦略, 今後の展望について語る。



**石橋知博 ((株)ウェザーニューズ 取締役 (アメリカ販売統括主責任者, BtoS事業全般))**

**【略歴】** 1998年3月中央大学理工学部情報工学科卒, 1998年4月日本ビューレット・バックカード(株)入社, 2000年10月(株)ウェザーニューズ入社 営業本部, 2003年8月(株)ウェザーニューズ モバイルサービスグループリーダー, 2008年8月(株)ウェザーニューズ 取締役 (BtoS事業統括主責任者), 2012年5月同取締役 (アメリカ販売統括主責任者, BtoS事業全般) (現)。

## 14:45～15:30 招待講演(3): ビッグデータのハイプカーブに見えるもの: 音声対話と大規模人口動態推定を例として

**【講演概要】** ビッグデータと呼ばれる言葉が流行してほぼ5年になる。調査会社, ガートナーグループが毎年, 技術用語の人気度をまとめてハイプカーブとして発表している。ハイプカーブとは自然言語応答, 音声翻訳, SNS解析, ジェスチャー理解, 3D印刷等の新しい技術用語が注目され人気語となりその後廃れていく経路を示したものである。その経路において実用になった人気語は生き残る。本発表では, どういった用語が生き残るのか, 生き残らないのかを議論してみたいと思う。すべてを網羅的に議論するのは難しいため, ドコモが2012年3月に商用化した音声対話システム(しゃべってコンシェル)と, 現在試験的に進めている基地局をセンサーとした大規模人口動態推定処理(モバイル空間統計処理)の2つを事例として扱う。ビッグデータがいかに役に立つかは, 実際にそれを保有してサービス開発に至ることにより説明できるはずである。ここではビッグデータを背景にした音声認識, 言語理解等のメディア理解の技術進歩を示す。



**栄藤 稔 ((株)NTTドコモ 執行役員 研究開発推進部 部長 / DOCOMO Innovation(米国パロアルト)社長)**

**【略歴】** 学生時代はZ80で並列コンピュータ試作する計算機研究。パナソニックに就職と共にデジタルVCR試作。3年後ATRに出向。非単調推論, 知識構造表現を研究。ATRから大学に行き, パターン認識研究を2年間。これで学位取得。パナソニックに戻りMPEG標準化のリーダー。2000年にドコモに転じ, モバイルマルチメディアを担当。2002年末にシリコンバレーに異動。2005年に日本に戻り分散音声認識を商用化。2007年にデータマイニングを立ち上げ, 並列分散バタバイトデータベースを構築。自然言語処理応用をデータ量と並列計算システムで解決するアプローチを実践。2012年6月より, 戦略企画部門に移り, ネットワークインフラ強化とクラウドアーキテクチャの設計に情熱を燃やしている。

## 15:35～16:20 招待講演(4): BIG DATA or DEEP DATA

**【講演概要】** BIG DATAに関する政策課題(自動車中心)と経済産業省オリジナル提案のDEEP DATA論について概要を説明。



**前田泰宏 (経済産業省 製造産業局 自動車課 課長)**

**【略歴】** 1988年東京大学法学部を卒業後, 通商産業省(現 経済産業省)に入省。大臣官房総務課課長補佐などを歴任し, 2004年製造産業局政策企画官に着任。2005年に製造産業局ものづくり政策審議室長兼素形材室長に着任したことをきっかけに, 全国のものづくり現場を訪問しその数は600にのぼる。商務情報政策局文化情報関連産業課長, 商務情報政策局情報経済課長, 内閣府特命担当大臣(行政刷新)公務員制度改革担当大臣参事官, 内閣官房長官秘書官, 商務情報政策局サービス政策課長を経て, 2012年8月から現職。1964年生まれ, 兵庫県出身。

## 16:30～17:40 第2セッション [パネルセッション]

### 16:30～17:40 パネル討論: ビッグデータ時代の挑戦～新しい価値と産業創成に向けて～

**【討論概要】** ビッグデータは, 社会的, 経済的, 産業的にみて, どのようなインパクトをどの規模で産み出すだろうか? そのために何が必要だろうか? 現在, 着目すべき動きは何だろうか? このような観点から, パネリストに第1セッションのキーノートスピーカーならびに統計数理研究所の樋口所長にも加わって頂き, ご来場の参加者の皆様も交えながら議論する。

**司会: 岩野和生 (ソフトウェアアジアプログラム委員会 委員長 / 三菱商事 (株) ビジネスサービス部門 顧問)**

写真・略歴は, Openingを参照

**パネリスト: 石橋知博 ((株)ウェザーニューズ 取締役)** 写真・略歴は, 招待講演(2)を参照

**パネリスト: 栄藤 稔 ((株)NTTドコモ 執行役員 研究開発推進部 部長)** 写真・略歴は, 招待講演(3)を参照

**パネリスト: 前田泰宏 (経済産業省 製造産業局 自動車課 課長)** 写真・略歴は, 招待講演(4)を参照





パネリスト：樋口知之（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所 所長）

【略歴】1989年東京大学大学院理学系研究科地球物理学専攻博士課程了，理博。現在，情報・システム研究機構理事および統計数理研究所所長。専門はベイジアンモデリング。特にデータ同化。日本統計学会，電子情報通信学会，人工知能学会，日本応用数学会，日本バイオインフォマティクス学会，日本マーケティング・サイエンス学会，International Statistical Institute，American Geophysical Union等の各会員。

17:50～18:25 第3セッション [ソフトウェアジャパンアワードセレモニー]

17:50～17:55 ソフトウェアジャパンアワード 表彰式

17:55～18:10 受賞スピーチ (1)：大規模データをより深く・より速く分析する技術



西川 徹 ((株) Preferred Infrastructure 代表取締役社長 最高経営責任者)

【略歴】東京大学情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻。IPA 未踏ソフトウェア創造事業「抽象度の高いハードウェア記述言語」第30回 ACM 国際大学対抗プログラミングコンテスト世界大会19位。

18:10～18:25 受賞スピーチ (2)

●初音ミクという「場」



伊藤博之 (クリプトン・フューチャー・メディア (株) CEO / メタクリエイター)

【略歴】クリプトン・フューチャー・メディア (株) のCEO兼メタクリエイター (クリエイターのためのクリエイター)。クリエイターのためのさまざまな製品やサービスをクリエイトしている。2007年『初音ミク』をリリース。同年CGM型投稿サイト『ピアプロ』(piapro.jp)開設。2010年には音楽アグリゲートサービス『ROUTER.FM』を開始し、1800以上の音楽レーベルの楽曲を世界に向けて配信。現在更なる製品を札幌でクリエイト中。

●タイトル未定



戀塚昭彦 ((株)ドワンゴ ニコニコ事業統括本部 プラットフォーム事業本部 第三企画開発部 第五開発セクション)

【略歴】1999年(株)ドワンゴ入社。動画にコメントを付けるサービス「ニコニコ動画(仮)」を2006年に設計・開発し、以後「ニコニコ動画 開発総指揮」。2012年にはWindows8ストアアプリ版niconicoを開発するなど、現在も開発に直接携わっている。

18:25～18:30 Closing



丸山 宏 (ソフトウェアジャパンプログラム委員会 副委員長 / 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所 教授)

【略歴】1983年東京工業大学大学院理工学研究科修士課程修了。同年日本アイ・ビー・エム(株)入社。人工知能、自然言語処理、機械翻訳などの研究に従事。1995年京都大学より博士(工学)授与。1996年米IBMソフトウェア事業部において、インターネット技術の評価。以降、XMLやWebサービスの研究開発・標準化に従事。1997年～2000年東京工業大学情報理工学研究科客員助教授。2003年アイ・ビー・エム・ビジネスコンサルティング・サービスへ出向。2006年～2009年日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所所長。2009年～2010年キャノン(株)デジタルプラットフォーム開発本部副本部長。2011年4月より現職。

# ITフォーラムセッション

## サービスサイエンスフォーラム×JUAS×JST 社会技術研究開発センター

### ■サービスサイエンスの勘所～お客様は誰ですか、そのお客様の期待は何ですか～

会場：1F 特別会議室  
101-103 一体

**【セッション概要】**今年もサービスサイエンスフォーラムは、「JST 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター」と「JUAS 日本情報システム・ユーザー協会」との合同開催です。世の中のサービスを観察すると、サービス内容には知恵を絞り改善が進んでいますが、「お客様は誰なのか」は、あまり議論がなされていません。サービスに対するお客様の期待は千差万別なのに、すべてのお客様にハイレベルな一律サービスを提供して満足してもらおうとしているのが実態です。本セッションでは、サービスのもっとも大切な要素であるお客様についての議論を深めたいと思います。



司会：門倉純一（一般社団法人CRM協議会 理事）

**【略歴】**日本アイ・ビー・エム入社後、電子系のCAD/CAMなどのアプリケーション分野の営業に従事、IBM初のVANサービス営業を経て、通信とコンピュータを融合したシステムの営業推進を担当。80年代後半からはコールセンターを中心に担当し、その発展形としてビジネスとしてのCRM部門立ち上げに参加。当部門の責任者を経て現在CRMの営業支援を担当。1970年日本アイ・ビー・エム入社、1980年代後半より、CTI、IVRなどの製品を担当。以後コールセンタービジネスを担当。1996年頃より、CRMビジネスの担当。1999年CRMのマーケティング、営業支援2001年CRM協議会参加。

### 09：30～09：35 オープニング

### 09：35～10：05 講演(1)

#### 訪日旅行者は日本での観光に何を期待しているか？～個別適応型の観光プランニングに向けて～

**【講演概要】**訪日観光は今後の日本の成長戦略の柱であるが、その科学的・工学的な研究が十分になされているとはいえ、未開拓の分野である。特に今後の増加が見込まれる個人手配旅行者層(FIT)に対して魅力的なサービスをデザインしていくには、従来の国別セグメンテーションに留まらず、事前に抱く期待、旅行の嗜好、観光行動の特徴など、より“個”に着目した精緻化が求められる。本講演では、JST/RISTEX 問題解決型サービス科学研究開発プログラムでの採択プロジェクトにて講演者が取り組んできた、訪日旅行者の期待形成プロセスと観光周遊行動の調査結果について紹介する。また、これらの結果に基づいた観光プランニングの個別適応法について紹介する。



原 辰徳（東京大学 人工物工学研究センター 講師）

**【略歴】**2004年東京大学工学部システム創成学科卒業。2009年同大学院工学系研究科精密機械工学専攻博士課程修了。博士(工学)。同専攻助教を経て、2011年より同大学人工物工学研究センター講師。サービス工学、サービスCADシステム、製品サービスシステムなどの研究に従事。2009年東京大学学生表彰工学系研究科長賞(博士・研究)を受賞。2010年よりJST/RISTEX問題解決型サービス科学研究開発プログラムにて観光サービスに関するプロジェクトを遂行中。

### 10：05～10：35 講演(2)

#### システム開発サービスのお客様とお客中心のプロセス品質について

**【講演概要】**システム開発サービスの成果品質は一般にQ(品質)、C(予算遵守)、D(納期遵守)と言われ、これらを軸にした品質指標の研究は各所で進んでいる。一方でシステム開発サービスにおいてもこれらの成果品質とは異なる“プロセス品質”が存在する。たとえば言葉遣い、服装といった基本的なマナーに類する点から、進捗報告のあり方や担当者アサインの一貫性といった点まで、顧客の信頼が崩れることを防ぐ観点は多岐に渡る。“要求に沿って動くシステムができれば良い”だけではなく、プロジェクト全体の満足度を高めるための品質の考え方について考察する。



山本政樹 ((株)エル・ティー・エス 業務変革支援部 シニアマネージャー)

**【略歴】**立命館大学政策科学学部卒業後、アクセンチュアにて業務コンサルタントとして活躍。フリーコンサルタントを経てLTSに入社。各種調査、大規模システム開発における業務設計、新業務の導入推進など業務コンサルタントとしての経験が長い。加えてプロジェクト管理、システム開発方法論の開発/導入等にも従事。またJUASサービスサイエンス研究プロジェクトでシステム開発分科会リーダーを務めるなどサービスサイエンスの実務適用に関する研究も行っている。

### 10：35～11：05 講演(3)

#### 勝負は、お客様が買う前に決める！～ソーシャルメディアを活用した事前期待のマネジメント～

**【講演概要】**日本の企業や店舗で進められてきた顧客満足度運動、いわゆるCS活動は、その本質を理解していないために顧客満足が向上できない企業が多いと言われている。そこで注目されるのが、お客様の事前期待に合った共感できるコミュニケーションを実践する「事前期待のマネジメント」の考え方である。サービスサイエンスから生まれた「事前期待のマネジメント」は、いま、さまざまな企業で注目を集めており、それをソーシャルメディアの利用に応用することで、ライバルに先んじて事前にお客様をファンにすることも可能であると考え

ている。本講演では、ソーシャルメディアの活用を通じて、事前期待のマネジメントを実践していく方法について紹介する。



**柴崎辰彦 (富士通 (株) システムインテグレーション部門 戦略企画室長)**

【略歴】1964年東京都生まれ。1987年立教大学文学部心理学科 (産業心理、消費者心理) 卒業。1987年富士通 (株) に入社。国際デジタルネットワークビジネス、テレカンファレンスビジネス、CTIビジネス、CRMビジネスなど数々の新規ソリューションビジネスの立上げに従事。CRMビジネスでの経験を踏まえ、2009年頃からサービスサイエンスの研究と検証を実践中。現在、同社のシステムインテグレーション部門戦略企画室にてコミュニケーション創発サイト「あしたのコミュニティーラボ」を立ち上げ、オープンイノベーションを実践中。一般社団法人情報処理学会、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会、大学等での講演および論文掲載多数。著書「勝負は、お客様が買う前に決める！」(ダイヤモンド社)。

11:10 ~ 12:00 パネル討論

**サービスサイエンスの勘所～お客様は誰ですか、そのお客様の期待は何ですか～**

司会：門倉純一 (一般社団法人CRM協議会 理事) 写真・略歴は、司会を参照。

パネリスト：原 辰徳 (東京大学 人工物工学研究センター 講師) 写真・略歴は、講演 (1) を参照。

パネリスト：山本政樹 ((株)エル・ティー・エス 業務変革支援部 シニアマネージャー) 写真・略歴は、講演 (2) を参照。

パネリスト：柴崎辰彦 (富士通 (株) システムインテグレーション部門 戦略企画室長) 写真・略歴は、講演 (3) を参照。



**パネリスト：諏訪良武 (ワクコンサルティング (株) エグゼクティブコンサルタント 常務執行役員)**

【略歴】1971年オムロン入社。1985年通産省のΣプロジェクトに参加。1995年情報化推進センター長。1997年オムロンワールドエンジニアリングの常務取締役として保守会社の改革を指揮。2006年ワクコンサルティング常務執行役員、国際大学グローバルコミュニケーションセンターの上席客員研究員。2010年多摩大学大学院客員教授。サービスや顧客満足度を科学的に分析し、サービス企業の改革を支援するサービスサイエンスを提唱している。著書「顧客はサービスを買っている」(ダイヤモンド社)。

**IPA/SEC 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター**

**■ データに基づくソフトウェア開発・運用マネジメント**

会場：  
2F 中会議場 1

【セッション概要】信頼性の高いソフトウェアを効率よく開発し、安心して使い続けられるように運用するためには、開発や運用に付随するさまざまなデータを収集し、それらの分析結果を適切にフィードバックすることが重要です。具体的には、(1)進捗状況のモニタリングによる、異常の予兆検知と早期対処、(2)現在のデータと過去の蓄積データとの比較による、適切な計画策定及び現況の妥当性確認、(3)ソフトウェア開発・運用リポジトリに蓄積される定性・定量データのマイニングによる、有用な知見の抽出、が挙げられます。本セッションでは、このようなデータに基づくソフトウェア開発・運用のマネジメントに関し、IPA/SECにおける取組みと成果、及びソフトウェアリポジトリマイニングに関する内外の取組み動向等について紹介します。



**司会：柏木雅之 ((独)情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)**

【略歴】1983年茨城大学大学院工学研究科修士課程 (情報工学) 修了。同年、富士通 (株) 入社。画像管理やテキスト検索等のミドルウェアの開発等を担当後、SEの技術支援部門で社内標準の適用・推進活動等に従事。2010年4月より、IPAに出向中。非機能要求グレードや非ウォーターフォール型開発などを担当。

09:30 ~ 09:35 本セッションの趣旨説明

柏木雅之 ((独)情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員) 写真・略歴は、司会を参照。

09:35 ~ 10:15 講演 (1)

**現在のデータと過去の蓄積データとの比較に基づく定量的品質管理**

【講演概要】ベンチマーキングとして、収集・蓄積した開発データを分析した統計情報と比較することにより、新規プロジェクトの計画策定時の参考としたり、実施中プロジェクトの妥当性を確認したりすることができます。IPA/SECが協力企業から提供して頂いたソフトウェア開発データを蓄積・分析し、統計情報として整理した『ソフトウェア開発データ白書』の活用方法をご紹介します。また、過去の経験に基づく知見を利用し、ソフトウェアの品質を定量的に分析・予測する手法についてご説明します。



**三毛功子 ((独)情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)**

【略歴】1982年4月三菱電機 (株) に入社。設計分野、事務分野の業務システム開発、プロセス改善などに従事。2006年3月三菱電機 (株) を退社。2006年10月 (独)情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員。

10:15～10:55 講演(2)

## ソフトウェア開発データの見える化に基づく定量的プロジェクト管理

【講演概要】ソフトウェア開発中のプロジェクトにおけるさまざまなデータを定期的に測定して可視化することにより、異常の兆候を早期に発見し、必要な対策を講ずることができます。進行中の開発プロジェクトからプロジェクトデータを取得し管理する「プロジェクト管理機能」、プロジェクトデータから基本的な定量データ(規模、工数、工期)を自動収集・集計し、グラフデータを作成する「データ収集・集計機能」、グラフデータを表示する「分析レポート機能」を有する『定量的プロジェクト管理ツール(EPM-X)』についてご説明します。



大和田裕((独)情報処理推進機構 技術本部 ソフトウェア・エンジニアリング・センター 研究員)

【略歴】1979年、日本タイムシェア(株)(現TIS(株))に入社。SEとして官公庁向け開発プロジェクトに従事。1982年、日本IBM(株)に入社。大企業向けパッケージ・ソフトウェア開発部門にてソフトウェア開発プロジェクトに従事。2002年、アットネットホーム(株)(現、テクノロジーネットワークス(株))に入社。インターネットビジネスを支えるOSS/BSSのソリューション開発・運用部門の事業部長、技術統括担当部長を歴任する。2011年4月IPA/SECへ出向し、定量的プロジェクトツールの開発・普及を担当。

11:00～12:00 講演(3)

## ソフトウェアリポジトリマイニングの技術動向とその応用

【講演概要】ソフトウェアリポジトリマイニングは、「ソフトウェアリポジトリ」という鉱山から、マイニング(宝探し)をする技術であり、国内外で最もホットな研究テーマの1つとなっています。ソフトウェアリポジトリとは、狭義には、ソフトウェア構成管理システム(CVS、Subversionなど)、バグ管理システム(Bugzilla、影舞など)、メーリングリストアーカイブの3つのデータソースを主に指します。本講演では、代表的な研究テーマの紹介、および、開発現場に応用できる技術や知見を解説します。



門田暁人(奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 准教授)

【略歴】1994年名古屋大・工・電気卒、2007年より奈良先端大准教授。専門分野は、エンピリカル・ソフトウェア工学、および、ソフトウェアセキュリティ。これまで、IPA-SEC定量データ分析部会委員(2004～2010)、関西経済連合会組込みソフト産業推進会議委員(2007～)、IWSM/MENSURA2011プログラム委員長、FOSE2011プログラム委員長などを歴任。

## 高度IT人材育成フォーラム

### ■情報システムユーザーの期待に応える高度IT資格制度の創設に向けて

会場：  
2F 中会議場 2

【セッション概要】IT(情報技術)は社会的なインフラとして、またビジネスモデルや業務を革新するツールとして重要性を高めている。これらを支える高度な人材を育成するためには、人材像を明確にするとともに、高い能力を持った人材を適切に評価・処遇する必要がある。情報処理学会は、高度な情報系人材の能力を評価するための「物差し」として、ITスキル標準や国際的な通用性も考慮した高度IT資格制度「情報処理学会モデル」を提案した。本シンポジウムでは、主に情報システムユーザーの視点から高度IT資格制度に対する期待および期待を満たすための方策について議論を行う。



司会：掛下哲郎(佐賀大学 工学系研究科 准教授)

【略歴】九州大学情報工学科卒業。同博士後期課程修了。工学博士。現在、佐賀大学知能情報システム学科准教授。2001年度より学科の教育システムの構築を推進し、2003年度にJABEE認定を受けた。2008年度より高度IT資格制度およびIT専門職大学院等を対象とする認証評価機関の構築に取り組んでいる。データベースおよびソフトウェア工学を専門とする。情報処理学会、電子情報通信学会等会員。

10:00～10:20 講演(1)

## 情報処理学会の高度IT資格制度

【講演概要】情報処理学会では、高度なIT人材の能力を証明するとともに、情報系プロフェッショナルコミュニティをリードする高度IT人材の可視化にも役立つ資格制度の構築を目指している。コミュニティの構成員が自律的に質の向上を図り、コミュニティとしても、高品質な情報サービスの提供、情報サービス産業の国際的競争力の向上、IT人材の社会的地位の向上等に取り組むことができる。本資格制度は、情報処理学会だけでなく、企業、政府、大学、既存のプロフェッショナルコミュニティ等が連携した大規模なエコシステムの中核をなすものである。本講演では、国内外の動向を踏まえた高度IT資格制度の概要を紹介し、我々のビジョンについて述べる。



旭 寛治((株)日立製作所 情報・通信システム社経営戦略室)

【略歴】1971年(株)日立製作所入社。同社基本ソフトウェア本部長、ストレージソリューション本部長、(株)日立テクニカルコミュニケーションズ代表取締役等を歴任。1999年本会理事、2005年副会長。ITプロフェッショナル委員長、高度IT人材資格検討WG座長、歴史特別委員会委員、コンピュータ博物館実行小委員会主査。本会フェロー。

10:20～10:40 講演(2)

### 高度IT資格制度の創設に向けた取り組みの現状と課題

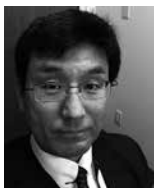
【講演概要】高度IT資格制度を創設するために、情報処理学会では関係者を集めての座談会や個別の意見交換、デジタルプラクティス「高度IT資格制度」特集号の発行、産業構造審議会・人材育成WGへの提言、各種イベントを通じた広報活動、高度IT資格制度の詳細に関する制度設計、IFIP IP3を通じた国際活動などを進めている。本講演では、これらの取り組みの概要、最近の成果および今後の課題について報告する。

掛下哲郎(佐賀大学工学系研究科准教授) 写真・略歴は、司会を参照。

10:40～11:10 講演(3)

### 高度IT資格制度に対する情報システムユーザーの期待

【講演概要】情報システムユーザーの現状を踏まえた高度IT資格制度に対する期待および、資格制度に対する要望について講演する。高度なIT人材に業務を委託したいとのニーズは大きいですが、高度な人材の能力を適切に評価することは容易でない。そのため、情報システムユーザーの立場からは、情報系の専門職人材の登用の際の能力評価指標、情報システム調達における事業者の人材評価指標、IT部門スタッフを育成する際の目標として高度IT資格制度に対する期待が大きい。



角田千晴(一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 事業企画推進部長)

【略歴】1994年より社団法人日本情報システム・ユーザー協会にて、情報システム・ユーザーの情報化動向に関する、調査や成果・結果の広報を担当。以降、当協会の事業企画推進に従事している。また、経済産業省関連の特別プロジェクトの企画、運営への関与多数。2012年度の経済産業省産業構造審議会情報経済分科会人材育成ワーキンググループの委員も担当。情報システムユーザースキル標準(UISS)に関しては、策定当初から参画している。

11:10～12:00 パネル討論

### ユーザーの期待に応える高度IT資格制度とは

司会: 旭 寛治((株)日立製作所 情報・通信システム社経営戦略室) 写真・略歴は、講演(1)を参照。

パネリスト: 掛下哲郎(佐賀大学工学系研究科准教授) 写真・略歴は、司会を参照。

パネリスト: 角田千晴(一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 事業企画推進部長) 写真・略歴は、講演(3)を参照。



パネリスト: 西 直樹(日本電気(株)中央研究所 グリーンプラットフォーム研究所 所長)

【略歴】1984年広島大学大学院工学研究科修了、同年日本電気(株)入社。C&Cシステム研究所にてスーパーコンピュータのアーキテクチャ研究開発、コンピュータ事業部でCMOS SX-4開発に従事。1995年よりマルチコアプロセッサ研究開発・携帯用実用化を推進。2003年研究部長、2007年システムIPコア研究所所長、2012年現職。情報処理学会・企業認定制度設計WG座長。

### コンタクトセンターフォーラム

#### ■ 経営に貢献するコンタクトセンター

#### ～経営視点と従業員視点の双方向からのあるべき姿とは?～

会場:  
2F 中会議場 3

【セッション概要】デフレ状況が続き、企業の成長が厳しい環境下において、コンタクトセンターは現在でも、コスト削減の対象部門となり、サービスレベルの低下や要員減員の状況となっているセンターが多い。コンタクトセンターが常にコスト削減対象となるのは、企業内においてコンタクトセンターの経営貢献度合いが明確でなく、また、顧客対応の最前線と言われながらも、重要な機能として認識されていないためである。当セッションでは、コンタクトセンターが経営貢献を実現するためのポイント(講演(1))と従業員の価値観が多様化する中、従業員満足度と経営的貢献とをいかに整合させるか?(講演(2))について事例を交えてご紹介し、経営貢献について、経営視点と従業員視点の双方向からそのあるべき姿について広範な議論を展開する(パネル・ディスカッション)。



司会: 宮崎義文(イー・パフォーマンス・ネクスト 代表)

【略歴】大手通信メーカーにて、デジタル電子交換機の開発に従事。その後、日本アイ・ピー・エムにて、日本初の銀行系テレホンバンキング導入を始めとし、銀行・生保・損保・通信・製造・流通業界を中心に20以上のコンタクトセンター/CRMの構築プロジェクトに従事。IBM ビジネスコンサルティング、IBM ビジネスアウトソース部門にて、コンサルティング領域に留まらずセンターの構築・運用も実践する。2009年より、イー・パフォーマンス・ネクスト代表 コンサルティング活動中。

09:30～09:35 オープニング

09:35～10:05 講演(1)

## CONTACTセンターの経営貢献～経営貢献度目標と従業員の努力目標との整合性は？～

【講演概要】CONTACTセンターがどう経営貢献しているのか？ よく見受けられるのは、センター目標や従業員の目標がどう経営貢献につながるのか明確でないケースである。これでは、経営貢献と言っても現場は何に向けて努力すればいいかわからず、経営側の理解も進まない。この問題を解決するには、経営貢献度の目標・センター運用の目標・各個人の達成目標の3つを明確化し、各従業員の目標実現がセンター目標達成に反映し、それが経営貢献に繋がるようにし、経営ーCONTACTセンター従業員の間で目標共有することが重要である。従業員の意識を大きく変え、経営への貢献度を強く訴求できる可能性がある。本セッションでは、経営貢献を実現するための上記ポイントにつき実践事例をもってご紹介する。



田口 浩 ((株)東京海上日動コミュニケーションズ 執行役員)

【略歴】(株)東京海上日動コミュニケーションズ 執行役員、一般社団法人CONTACTセンター教育検定協会理事。日本における初のCONTACTセンターマネージメント知識・スキル体系であるCMBOK (Contact Center Management Body Of Knowledge) の開発に携わり、CONTACTセンター従事者向けの検定制度の構築や、主任編集委員として学習テキストの執筆を担当、CONTACTセンター業界の日本での認知度向上や、次世代人材育成のための活動を行っている。

10:10～10:40 講演(2)

## CONTACTセンターは人が全て～多様化する従業員の価値観と経営貢献との両立は？～

【講演概要】CONTACTセンターのサービスは、すべて人により提供されることから、活動の主体である従業員(人)がすべてであると言っても過言ではない。他方、従業員の価値観が昨今、大変多様化してきており一律の対応が実情に合わなくなってきている。価値観の多様化を前提に従業員満足度・個人目標・キャリアプランを的確に捉え直すことで、コールセンターは、実に、非常に多様な就業価値観を抱かしうる職域になりうる。オペレーターから見た就業期待と企業側から提供可能な条件をマッチングすることで、個人の希望するワークスタイル実現や自己実現と経営的貢献との両立、給与水準だけに依存しない人材登用の活性化、企業のキー人材育成を期待しうる。また同時にその会社が用意するリソースを効果的に現場で活用するマネジメントが重要になってくる。その状況を事例とともに提案する。



小柳津誠 (伊藤忠アーバンコミュニティ (株) お客様サービスセンター営業担当役員補佐/お客様サービスセンター長)

【略歴】1983年3月名古屋大学電気電子学科卒、1983年4月(株)リクルート入社。営業職、通信技術職。1992年10月(株)コスモスライフ入社。情報システム、コールセンターの責任者。2006年1月伊藤忠アーバンコミュニティ(株)入社。情報システム、コールセンターの責任者。2009年10月より同CIO。2012年4月より営業担当役員補佐として新規事業(商品企画、保険、コールセンター)統括。

10:50～12:00 パネル討論

## 経営に貢献するCONTACTセンター

### ～センターの実情と経営視点と従業員視点の双方向からのあるべき姿とは？～

【討論概要】CONTACTセンター運営の実務者・責任者を交えて、センターの実情を踏まえて、経営貢献について経営視点と従業員視点の双方向からそのあるべき姿について広範な議論を展開する。●CONTACTセンターの経営貢献の中身は何か？ ●経営ー従業員の間で目標共有、その実現性と成果は？ ●現場での従業員の価値観が多様化、その実体は？ ●経営貢献/社会貢献と従業員の就業期待の両立は？ ●センターマネージメントのスタイルはどうあるべきか？ ●マネージャーのスキル/経験をどう加速化するか？ 等々

司会：宮崎義文 (イー・パフォーマンス・ネクスト 代表) 写真・略歴は、司会を参照。

パネリスト：田口 浩 ((株)東京海上日動コミュニケーションズ 執行役員) 写真・略歴は、講演(1)を参照。

パネリスト：小柳津誠 (伊藤忠アーバンコミュニティ (株) お客様サービスセンター営業担当役員補佐/お客様サービスセンター長) 写真・略歴は、講演(2)を参照。



パネリスト：増田由美子 ((株)消費者の声研究所 代表取締役)

【略歴】中央大学法学部卒業。大手テレマ会社で金融機関向けコンサルティング及び受託センター業務の統括を担当後、グローバルIT企業でのCRM/BIコンサルティングクラスターパートナーを経て独立。現在(株)消費者の声研究所代表。2003年より国立大学法人琉球大学非常勤講師。公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会(NACS)会員。



パネリスト：寺下 薫 (ヤフーカスタマーリレーションズ (株) カスタマーエクスペリエンス部品質推進部 教育研修チーム トレーニングマネージャー)

【略歴】大手外資系企業にて、電力会社の大型コールセンターを立ち上げ、マネージャーとして、従事。2009年5月、ヤフー(株)に入社。入社後、業務の企画設計やコールシステムの運用管理などコールセンター全般の運営・改善に携わる。これまでに120以上のセンターの業務改善やSV500名以上の育成に従事。2010年ヤフーカスタマーリレーションズ(株)へ出向。2012年7月より現職。

## ITダイバーシティフォーラム

■ IT makes us happy! ~ ITで楽しくしなやかに生きる! ~

会場：  
2F 中会議場 4

**【セッション概要】** ITは重要な社会インフラであることは疑いようがありません。昨今は、システムが大規模化し、複雑化し、セキュリティ、業務継続性、運用保守性などの側面が重要視されています。ITを用いて、安心・安全で信頼性の高い社会の実現につなげるのは、情報処理学会の使命であり、情報処理の技術者が取り組むべき事柄です。しかし、取り組む一人一人のモチベーションが下がったままでは使命達成も加速しません。私たちが楽しくいきいきとチャレンジできることが重要だと考えます。本セッションでは、ITを通じたビジネスやサービス提供にかかわる方々にご登壇いただき、ITは人と人をつなげ、生活を豊かにしてくれる手段であることを再認識し、私たちが毎日いきいきとしなやかに生きるためのヒントについて考えてみます。



**司会：位野木万里（東芝ソリューション（株）IT技術研究所 研究開発部 研究主幹）**

**【略歴】** 1991年早稲田大学大学院理工学研究科数学専攻修士課程修了、同年（株）東芝入社。2012年7月より現職。2008年早稲田大学大学院理工学研究科情報・ネットワーク専攻博士課程修了。博士（工学）。専門はソフトウェア工学。ソフトウェア資産および経験的に得られた暗黙知を形式知化し、それらを再利用する手法の考案、実開発での適用に従事。情報処理学会理事、日本工学会理事、国立情報学研究所特任教授。

09:30 ~ 10:10 講演(1)

### プチデータの時代~ビッグデータ解析に求められるダイバーシティ

**【講演概要】** Webログ、SNSやGPSデータ、そして店舗での購買履歴など、一人の人間の行動を追いかけることが可能なインフラが整備され、大量のデータ解析を可能とするソフト・ハードが開発されている。人間の嗜好までも解析できると意気込む関係者の話を聞くが、本当にそうなのだろうか。ビッグデータ解析から出てくる結果は、ある意味優秀なマーケティングであれば分りきった平均的なことが多いように感じる。多くのごみを含むビックデータの中からキラリと光るプチデータを見つけ出すこと、それがマーケティングにとって必要なことであり、システムに求められることである。人間は思いつきで行動し、気まぐれで商品を購入する。それをデータから読み解くためには、システムにもダイバーシティの視点が求められる。



**宇野晶子（（株）資生堂 お客さまセンター 次長）**

**【略歴】** 新潟県生まれ、東京在住。筑波大卒。1983年（株）資生堂に入社。店頭機器の教育、社内報の編集を経て経営改革室にて社員意識調査や改革活動を担当。2度の育児休暇取得後、ビューティーサイエンス研究所にてママ研究を担当。当時のパソコン通信でママモニターとの会議室を運営。その後、Web推進室にてサイトの企画運営、経営企画部にて調査担当を経てライフクオリティーセンターの設立を担当し、2009年より現職。

10:10 ~ 10:50 講演(2)

### IT部門主導によるデジタルマーケティングとダイバーシティ

**【講演概要】** 東急ハンズにて、フェイスブック、ツイッター、コレカモネット (<https://korekamo.net>)、iPhoneアプリなど、お客様に楽しい！と感じていただく施策を実施。本セッションでは、企業のIT部門が主導でデジタルマーケティングの領域を推進していくコツを説明します。



**長谷川秀樹（（株）東急ハンズ 執行役員ITコマース部長）**

**【略歴】** 1994年、アクセンチュア（株）に入社後、国内外の小売業の業務改革、コスト削減、マーケティング支援などに従事。2008年、（株）東急ハンズに入社後、情報システム部門、物流部門、通販事業の責任者として改革を実施。デジタルマーケティング領域では、ツイッター、フェイスブック、コレカモネットなどソーシャルメディアを推進。最近では、O2Oの取組みを熱心にやっています。

10:50 ~ 11:30 講演(3)

### 情報通信技術を用いた音楽療法

**【講演概要】** 音楽には人の心を癒したり、地域との繋がりを作るなど、さまざまな力があります。この音楽の力を人の幸せな生活を支える為に活用するのが「音楽療法」です。最近に関心が高まりつつありますが、その効果はまだよく分かっていません。本研究では、認知症高齢者を対象に音楽療法の効果を明らかにすることを目指しています。また、在宅介護を支援するための音楽療法についても研究を進めています。この講演では、それぞれの研究において、ITを何のためにどのように活用しているかという点を中心に、これまでの研究の歩みと最新の状況、および今後の予定、将来の目標などについてお話しします。



**小杉尚子（NTTコミュニケーション科学基礎研究所 研究主任）**

**【略歴】** 1995年慶應義塾大学大学院理工学研究科計算機科学専攻修了。2004年慶應義塾大学大学院にて博士（工学）取得。2005年ニューヨーク大学客員研究員を経て、2009年より現職。専門は音楽情報処理、データベース、情報検索技術などで、これまでの主な研究成果は歌唱を入力して楽曲を検索する「ハミング検索技術の研究開発」。現在は最先端・次世代研究開発支援プログラムの研究代表者として音楽療法の研究に携わりと共に、音楽の可視化技術や運動支援のための音楽検索・加工技術に関する研究に従事。

## 11:30～12:00 総合ディスカッション

【ディスカッション概要】ITを用いて私たちが毎日をいきいきとしなやかに生きるためのヒントについて、会場全体でディスカッションをします。

司会：位野木万里（東芝ソリューション（株）IT技術研究所 研究開発部 研究主幹） 写真・略歴は、司会を参照。

## JISA 情報サービス産業協会 ■プロジェクト健全化への提案

会場：  
2F 会議室 201-203 一体

【セッション概要】情報システム開発のプロジェクト運営、技術力向上に資するため、JISA（一般社団法人情報サービス産業協会）が独自に開発した「プロジェクト健全性評価指標」と、国内規格化に取り組んでいるISO/IEC 29110「小規模組織のソフトウェアライフサイクル」を紹介する。



司会：鈴木律郎（一般社団法人情報サービス産業協会 企画調査部 次長）

【略歴】JISA技術委員会の運営事務局を担当。要求工学、オープンソース、標準化等の調査研究を支援し、当産業への普及定着活動を推進。

## 09:30～10:30 講演(1)

### プロジェクトを健全化に導く「健全性評価指標」

【講演概要】JISAでは、2012年7月「プロジェクト健全性評価指標」を公表した。本指標は、プロジェクトに関わるステークホルダ間の、人間的な側面に着目して開発されたものである。この背景には、昨今の開発プロジェクトが、受注者、発注者や利用者の全ステークホルダが協調関係になければ、プロジェクトを成功へ導くことが難しくなっていることに因る。この指標は、お互いの状況や立場を理解、尊重し、協働してゴールに向かって進み、ステークホルダ全員が満足することを目的に活用する。このセッションでは指標策定の背景と目的、活用方法、今後の展開について紹介する。



後藤卓史（（株）構造計画研究所 品質保証センター PM支援室）

【略歴】1986年（株）構造計画研究所入社後GUI関連のソフトウェア開発を経て、品質保証部門にてプロセス改善業務に従事。1993年より、IFPUG日本会員連絡協議会（後JFPUGに改名）のボードメンバとして、社内外へのFP法普及に努める。2009年度よりJISA技術委員会標準化部会に委員として参画し、プロジェクト健全性評価指標開発に携わる。

## 10:45～11:45 講演(2)

### 小規模組織の信頼性向上に資するVSEソフトウェアプロセス規格とその適用

【講演概要】情報サービス産業は、比較的小規模な企業が多いとも言われる。また大規模、中堅企業でも、従事するプロジェクトの短期化、小規模化が進んでいると言われる。そのような開発業務環境に対応するため、JISAでは国際標準化団体JTC1/SC7/WG24（ISO/IEC 29110規格等策定）の国内委員会へのリエゾン活動等を通じて、小規模組織のためのソフトウェアプロセスの調査研究も進めている。今回、小規模組織向けの開発標準とも言うべきISO/IEC 29110規格のJIS規格（日本工業規格）原案作成を行った。この規格は、規模や特性に応じた「プロファイル」を定義し、小規模組織にとって負担の少ないプロセスを提案している点に特徴がある。このセッションでは、JISAがJIS化に取り組んだ背景、規格の概要や適用事例を紹介するとともに、今後の取り組みや課題にも触れる。



伏見 諭（東海大学 教育情報センター 講師）

【略歴】現場のソフトウェア開発に15年ほど、プロジェクトマネジメントに10年ほど従事。情報規格調査会SC7/WG24主査。JISA技術委員会標準化部会部会長。VSE-JIS化WGリーダー。

## 11:50～12:00 紹介

### JISA 技術委員会の紹介

【講演概要】情報サービス産業協会（JISA）の技術委員会の活動内容を紹介する。

鈴木律郎（一般社団法人情報サービス産業協会 企画調査部 次長） 写真・略歴は、司会を参照。



## JEITA 電子情報技術産業協会

09:30 ~ 12:00 パネル討論

### ■ ICTが実現する近未来のワークスタイル

会場：国立情報学研究所  
12F 会議室 1208

【セッション概要】ユビキタス／モバイルによる企業内ワークスタイルの革新が進む一方、ソーシャルメディアを主なワークプレイスとした個人（フリーランス）の増加によって「働き方」のあり方が大きく変容しつつある。本セッションでは、企業と個人の視点から、ビジネスにおけるICTを駆使したコミュニケーション環境について議論する。また、ICTの進化に伴い、時と場所を選ばずに仕事をする機会が増えていることを受け、企業と個人のワークプレイスの融合も視野に入れた近未来のワークスタイルを提言する。



司会：斎藤敦子（コクヨ（株）RDIセンター（研究開発部門）主幹研究員／WORKSIGHT編集長）

【略歴】コクヨRDIセンター（研究開発部門）主幹研究員、『WORKSIGHT』編集長。1991年入社。現在、次世代のワークスタイル、ワークプレイスの研究開発に尽力。都内にて多様なコ・ワーキングスペースの展開にも取り組む。



パネリスト：妹尾 大（東京工業大学 大学院 社会理工学研究科 准教授）

【略歴】東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授。組織の生産性や成果を高めるためのワークプレイスの研究に従事。主な研究プロジェクトに、知識創造支援ワークスタイルとワークプレイス（クリエイティブオフィス）の分析などがある。



パネリスト：佐々木哲也（（株）富士通総研 産業事業部 シニアコンサルタント）

【略歴】富士通総研 産業事業部 シニアコンサルタント。2003年入社。現在、製造業を中心とした民間企業のコンサルティングに従事。組織の暗黙知を起点に新しい価値創造を生み出すプログラムを展開。

## AITC 先端 IT 活用推進コンソーシアム

### ■ ビッグデータが導く「知識から行動へ」実証プロジェクトのご紹介

会場：国立情報学研究所  
12F 会議室 1210

【セッション概要】先端IT活用推進コンソーシアム（AITC）では5部会が連携し、「Project LA（Leads to Action）」に取り組んでいます。Project LAでは収集した情報を知識化し、行動を促すシステム「System LA」として、クラウド基盤上のビッグデータに人々が意味付けし、System LAが機械的に構造化・解析することで個人化した知識を提示し、一人ひとりの行動が促されることを目指しています。本日は、プロトタイプを含めて「Project LA」についてご紹介します。



司会：田原春美（AITC副会長、運営委員会議長／ドリームIT21）

【略歴】日本アイ・ビーエムにてVMシステムエンジニアやOS/2推進、ソフトウェアマーケティング等に従事。IBMが全世界で展開するEmerging Technology推進プログラムjStart（Jump Start）に日本代表として参加。Java、XML、Webサービス等の先進的利活用を牽引した。これまでに、OS/2、Java、EJBコンポーネント、XML、AITCの5コンソーシアムを立ち上げ、特にJava以降は、オープンな先進技術を業界横断で普及推進することに注力し、現在もライフワークとして企業の枠を超えた活動の場作りに取り組んでいる。

09:30 ~ 09:40 オープニング

田原春美（AITC副会長、運営委員会議長／ドリームIT21） 写真・略歴は、司会を参照。

09:40 ~ 10:15 講演（1）

### Project LAの概要紹介

【講演概要】AITCがProject LAで実現を目指すものとは？ 行動を促し、行動を引き起こす情報の提供とは？ Project LAの全体概要をご紹介します。併せてコンテキスト・コンピューティング研究部会を中心に検討中のアーキテクチャをご紹介します。



牧野友紀（AITCコンテキスト・コンピューティング研究部会 リーダー／日本ユニシス（株））

【略歴】日本ユニシス（株）アドバンスド技術部所属。先端IT活用推進コンソーシアムの設立に関与。人と情報の関係性（コンテキスト）を計算し、情報を「個人化」するコンテキスト・コンピューティングを研究領域として立ち上げ、その実現に向け活動中。

10:15 ~ 10:45 講演 (2)

## Project LAプロトタイプご紹介

【講演概要】2013年3月から公開予定のProject LAのフロントエンドをご紹介します。



高岡大介 (AITC コンテキスト・コンピューティング研究部会 メンバー / (独)産業技術総合研究所)

【略歴】産業技術総合研究所知能システム研究部門社会知能研究グループ。サービスの価値共創を仮説検証として科学することにより、社会的価値の増大をもたらす方法を研究している。その中でいかに先端IT技術の実装と応用を行うかが中心的関心事。今期よりAITC運営委員としても活動。

10:45 ~ 11:15 講演 (3)

## バックエンドの技術解説

【講演概要】クラウド・テクノロジー研究部会で作成したProject LAのバックエンドのRDFサーバについてをご紹介します。ソーシャルデータやその他のデータを収集してRDFに格納し、SPARQLによる一元的な検索の実現についてご説明します。



荒本道隆 (AITC クラウド・テクノロジー研究部会 リーダー / アドソル日進 (株))

【略歴】AITCの前身であるXMLコンソーシアム時代から、XML・Webサービスを使った検証や実証実験に参加。現在はAITCにてクラウド・テクノロジー研究部会のリーダー。

11:15 ~ 11:45 講演 (4)

## Project LAにかける夢

【講演概要】ユーザーエクスペリエンス技術部会で検討中の近未来のユーザー体験を踏まえ、AITCがProject LAにかける夢をご紹介します。



松山憲和 (AITC ユーザーエクスペリエンス技術部会 リーダー / PFUソフトウェア (株))

【略歴】1988年(株)PFU入社。ソフトウェア開発環境の整備、データベース関連ツール、文書管理製品の開発に従事。その後、分散コンピューティングやモバイル・エージェントの調査・研究を行う中でXML技術、特にWebサービス関連技術の重要性からXMLコンソーシアムに参加。XMLコンソーシアム Webサービス実証部会で先進的な実証実験を多数実施。現在は、UXデザインプロセスを中心として、次世代の開発環境などに従事している。先端IT活用推進コンソーシアム ユーザーエクスペリエンス技術部会リーダー、情報処理学会会員。

11:45 ~ 12:00 Q & A

## ITフォーラム展示 13:00 ~ 18:30

### ユニバーサルデザイン協創フォーラム

#### ■ 見えなくても中身がわかる!! バーコードを用いた視覚障害者向け商品案内

会場：  
2F 一橋講堂前

【展示概要】相方が仕事のあいだ留守番しているとき、あるいはひとり暮らしの方、下宿している学生さん！ まとめ買いしてきた商品や、棚の奥にしまってあった缶詰め、いままさに空けようとしているペットボトルの中身、インスタントラーメンの味が、空ける前になんとかわかったら、生活が楽しくないと思いませんか。バーコードを読み取って、視覚に障害のある人に音声で知らせるプロジェクトをはじめています。と聞いたら、「どこにバーコードが印刷されているか分からないだろうから、ひとりで読むのは無理じゃないの?」と思いますよね。会場にデモソフトを用意していますので、視覚に障害のある方もない方もぜひいらして体験してみてください。また、腕に自信のある方、ぜひフォーラムに参加して、ソフト開発にご協力ください。



フォーラム代表者：嵯川友宏 (筑波大学大学院システム情報工学研究科 / 学術情報メディアセンター)

【略歴】筑波大学自然学類卒業。学部在学中に福祉機器に関心をもち、情報学部生に紛れハードウェアやアルゴリズムを学ぶ。大学院より情報分野に転身。2000年同大大学院工学研究科修了。同年静岡大学情報学部助手として着任し、情報家電の研究に着手。現在の興味は、手頃な情報保障のためのモデル作りとアクセシビリティ向上のための機器連携フレームワーク。情処学会福祉情報システムフォーラム世話人、映メ学会コンシューマエレクトロニクス研究会幹事。IEEE CE Japan Chapter 若手論文賞 ('00, '00, '01, '01, '03), IEEE Intl. Conf. on Consumer Elec. Outstanding Paper Award ('05 Poster)。

# お食事処案内 / Restaurant Guide

No.	店名	電話番号	ジャンル	休日	No.	店名	電話番号	ジャンル	休日
1	パレスサイドビル				7	出雲そば本家	03-3291-3005	そば	△
	地下1F				8	さぼうる2	03-3291-8405	喫茶	△
	長寿庵	03-3213-2030	うどん・そば	△	9	Le 窯ぞう	03-5280-3860	ピストロ	△
	高田屋	03-3216-6021	うどん・そば	△	10	マンダラ	03-3265-0498	インドカレー	△
	いろは	03-3211-1680	寿司	△	11	メナムのほとり	03-3238-9597	タイ料理	△
	タカサゴ	03-3214-2520	カレー	△	12	ムイト・ボン	03-3238-7946	ブラジル料理	△
	赤坂飯店(本店)	03-3213-2678	中華	△	13	ムアン・タイ・なべ	03-3239-6939	タイ料理	△
	竹はし	03-3214-9084	とんかつ	△	14	EKIONOT	03-3222-3111	カフェ	△
	マンマミーア	03-3214-2809	イタリアン	△	15	上海朝市	03-3288-2333	中華バイキング	○
	ユック	03-3211-6575	郷土料理	△	16	ボンディ神保町店	03-3264-8320	欧風カレー	△
	ニュートーキョー	03-3216-2411	ピアレストラン	△	17	狐兎	03-5275-0765	和定食	○
	ドトールコーヒー	03-3211-7564	喫茶	△	18	いちい	03-3239-1029	和定食	×
	上島珈琲館	03-5288-7520	喫茶		19	天鴻餃子房	03-3263-6992	餃子	○
	1F				20	新世界菜館	03-3261-4957	上海料理	○
	カシーヌ	03-3215-7465	カフェレストラン		21	薬膳カレーじねんじょ	03-3239-7311	薬膳カレー	○
	クシガーデン	03-3215-9455	デリ&カフェ		22	咸亨酒店 新館	03-3288-0333	中華粥・飲茶	○
	スターバックスコーヒー	03-3212-3510	コーヒー		23	大戸屋	03-5212-7222	和定食	○
	マクドナルド	03-5220-2639	ファーストフード	○	24	咸亨酒店 本館	03-3288-3330	中華粥・飲茶	○
2	如水会館				25	菽	03-3261-6840	そば	×
	1F				26	Esperia	03-3234-2588	多国籍定食	△
	ジュピター	03-3261-1101	フランス料理	△	27	神保町いろは本店	03-3293-1681	寿司	△
	バー・ジュピター	03-3261-1101	喫茶	△	28	野らぼー	03-3221-5070	讃岐うどん	△
	マーキュリー	03-3261-1101	喫茶	○	29	もちぶたや	03-3511-9388	沖縄料理	△
	3F				30	ランチョン	03-3233-0866	洋定食	△
	和室	03-3261-1101	和食	△	31	出め魚	03-3291-1480	和定食	○
3	学士会館				32	TINUN	03-5212-0355	タイ料理	△
	1F								
	ラタン	03-3292-0881	カフェレストラン	○					
	二色	03-3292-3960	寿司	△					
	紅楼夢	03-3292-0880	中華	△					
4	小学館ビル								
	地下1F								
	七条	03-3230-4875	洋定食	△					
	ノルブネ	03-3556-8841	韓国料理	△					
	神田さんくす 九州	03-3264-4826	和定食	×					
	ピストロシーズン	03-3556-5533	洋定食	×					
5	東京パークタワー								
	1F								
	コッコドリッロ	03-5217-0337	イタリアン	△					
	藩街粥麵專家		麵・粥	○					
	ロイヤルホスト	03-5217-0297	ファミレス	○					
	柳屋	03-3291-0213	蕎麦	△					
	Buona Maia	03-3293-1683	イタリアン	○					
	いぬ居	03-3518-4129	しゃぶしゃぶ	△					
6	すずらん通り								
	A 揚子江菜館	03-3291-0218	上海料理	○					
	B はるだんじ	03-3291-8588	和定食	×					
	C ろしあ亭	03-5280-3753	ロシア料理	△					
	D スキートポーズ	03-3295-4084	餃子	△					
	E マキアヴェリの食卓	03-3296-1415	イタリアン	×					
	F 莉須凡	03-3292-0005	甘味処	△					
	G 三幸園	03-3222-0186	中華	△					
	H ホイリゲ古瀬戸	03-3295-4095	洋定食	△					
	I TAKANO	03-3295-9048	カフェ	○					
	J 福兆	03-3292-2929	和定食	×					

○・・・無休 △・・・日・祝お休み ×・・・土・日・祝お休み  
 ※ランチの時間等はご確認ください。お店により異なります。  
 ※ランチメニューの無いお店もございます。

# 学術総合センター周辺ランチマップ



## 大会招待講演企画

聴講参加無料

※聴講参加申込が必要です

1

6日(水) 13:40-14:10 【第1イベント会場 マルチメディア教育研究棟 2F M206】



Crowdsourcing, Social Computing and the New Methods of Computer Science  
David Alan Grier  
IEEE Computer Society President

2

6日(水) 14:15-15:15 【第1イベント会場 マルチメディア教育研究棟 2F M206】



人とアンドロイドとメディア  
石黒 浩  
大阪大学 基礎工学研究科システム創成専攻 教授 /  
ATR石黒浩特別研究室 室長

3

7日(木) 13:10-13:50 【第1イベント会場 マルチメディア教育研究棟 2F M206】



災害に強い無線通信ネットワークを目指して  
安達 文幸  
東北大学 大学院工学研究科通信工学専攻 教授

4

7日(木) 13:50-14:30 【第1イベント会場 マルチメディア教育研究棟 2F M206】



地震防災におけるビッグデータ  
青井 真  
独立行政法人防災科学技術研究所  
地震・火山観測データセンター センター長

5

8日(金) 13:00-14:00 【第1イベント会場 マルチメディア教育研究棟 2F M206】



スマート・エイジング  
～脳機能解析学が拓く新しい超高齢社会～  
川島 隆太  
東北大学 高齢医学研究所 教授

# 情報処理学会 第75回全国大会

## ここから始まる情報社会の未来

<http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/75/>

共催:東北大学大学院情報科学研究科 後援:東北大学 / 仙台市 / 仙台観光コンベンション協会

開催

# 2013/3/6(水) → 8(金)

会場

## 東北大学 川内キャンパス

【宮城県仙台市青葉区川内41】



## イベント企画

聴講参加無料

※聴講参加申込が必要です

第1イベント会場 【マルチメディア教育研究棟 2F M206】

6日(水)

- 安全・安心を守るためのRT(ロボット技術)、ICT(情報通信技術)
- 大会挨拶・各種表彰式・情報処理技術遺産認定式
- 招待講演-1 David Alan Grier (IEEE-CS)
- 招待講演-2 石黒 浩 (大阪大学)
- ニコニコ学会β:研究してみたメソッド特集

7日(木)

- ライブラリを支えるICT基盤の高次元化に向けて
- 情報をライブラリに/シンポジウム「共催:日本学術会議 情報学委員会 情報情報分科会」
- 招待講演-3 安達 文幸 (東北大学)
- 招待講演-4 青井 真 (防災科学技術研究所)
- パネル討論-1 震災時の情報伝達を振り返る
- パネル討論-2 情報ライブラリ化の技術

8日(金)

- 新しい情報社会を支えるセキュリティとプライバシー保護
- 招待講演-5 川島 隆太 (東北大学)
- ビッグデータを支えるクラウド基盤

第2イベント会場 【A棟2F A200】

6日(水)

- 行動をデザインする! ~人の行動を促す人間-環境インタラクションデザイン~
- 東北からはじまるITグローバルビジョン ~東北の魅力をグローバルにつなげる~

7日(木)

- 論文必読法 ~基礎から一巡読・会議録まで~
- 最適化の巧みな利用手法

8日(金)

- 災害に強い情報通信ネットワークの実現に向けて
- 人間と情報社会構築に向けた人間理解の技術
- 視覚的顕著性評価関連技術を中心に~

第3イベント会場 【B棟2F B200】

6日(水)

- ~コンピュータ/バイオニアが語る~「私の誇りと真実」
- 改正著作権法について

7日(木)

- できるのか? 高大連携情報教育
- デジタルコンテンツ研究のススメ

8日(金)

- コンピュータグラフィックスの断片
- ICTの英知を総動員して震災に取り組み!

第4イベント会場 【C棟2F C200】

6日(水)

- 大学教育と産業界での人材育成の連携に向けて
- ~企業が求める大学教育と進学準備による高度IT人材育成の課題をどう解決するか~
- 大学教育と産業界での人材育成の連携に向けて
- ~情報専門教育、カリキュラム標準、資格制度、スキル標準の有機的連携~

7日(木)

- 若手研究者問題と情報系 ~日本学術会議若手アカデミー委員会企画パネル討論~
- データセンタにおけるグリーンITの取り組み

8日(金)

- 安全・安心な暮らしを支えるハイパフォーマンスコンピューティング ~防災・震災に向けて~

ワークショップ「減災・復興と情報ライブラリ」 ※別途ワークショップ参加申込(有料)が必要.詳細はWebで

5日(火) 石巻コース / 名取コース

東北大学サイバーサイエンスセンター見学ツアー(情報処理学会分館コンピュータ博物館) ※詳細はWebで

8日(金) 15:00から1時間程度 ※見学ツアー以外の日時でも、展示室の見学可能

## 一般・学生セッション

【聴講参加有料】 ※聴講参加申込が必要です

6日(水)~8日(金)

約1,400件の研究成果発表があります。大会3日間でおおよそ30会場を使用して、190あまりのセッションが組まれ、活発な発表、議論・討論が行われます。

## 懇親会

【有料】 ※参加申込が必要です

6日(水) 18:30~20:30 会場:東北大学川内キャンパス 百年記念会館(川内校舎ホール)2F会議室

毎回多数の方にご参加を頂いております。大会参加者の皆様の親睦を是非深めてください。

情報処理技術分野で日本最大級の学会

東北大学(川内)で3日間にわたって開催!

大会イベント企画限定聴講参加なら参加費無料!

大会情報詳細はこちら

情報処理学会第75回全国大会

検索

## 大会聴講参加費・講演論文集代・懇親会参加費(税込)

聴講参加費	費用	講演論文集代	定価
大会イベント企画のみ聴講参加	無料	セット(DVD付)	61,000円
大会共通聴講参加(正会員)	3,000円	分冊	13,000円
大会共通聴講参加(正会員)DVD付	8,000円	DVDのみ(個人)	8,000円
大会共通聴講参加(一般非会員)	6,000円	DVDのみ(法人)	53,000円
大会共通聴講参加(学生)	無料	※セットDVD付(分冊)は個人・法人ともに同額です。	

\*大会イベント企画のみ聴講参加は、招待講演企画・ペーパーセッション・懇親会参加費(個人)を除き、各参加費のみ聴講参加費として一律10,000円(学生セッション聴講参加は除く)です。  
\*大会共通聴講参加料は、一般セッション・学生セッションを含む大会全体のセッションの聴講参加費です。

## Gold Sponsors



株式会社とめ研究所

# KURAMOTO

株式会社元製作所



The company which creates a technology

匠ソリューションズ株式会社



株式会社 サイバー・ソリューションズ

Cyber Solutions Inc.



株式会社エキサイト

## Silver Sponsors



株式会社知識情報システム



テクノシステム株式会社



システムスクエア



東北電子工業株式会社



東北電子工業株式会社



東北電子工業株式会社



共立出版

共立出版株式会社

# 情報処理学会の会員になりませんか!

www.ipsj.or.jp

新規会員  
募集中

一般社団法人 情報処理学会は、IT に関する専門家集団として健全な情報化社会の実現に向けて、学術・文化・産業等の多方面に貢献しています。

## ■活動の概要

- 機関誌（「情報処理」「情報処理学会論文誌」）の発行
- 各種行事の開催（研究発表会、全国大会、FIT（情報科学技術フォーラム）、シンポジウム、連続セミナー他）
- 情報処理教育活動
- 国際交流
- 標準化活動
- 出版活動

## ■会員になるには

入会金（正会員のみ）と会費をお振り込みの上、入会申込書をお送りください。理事会で承認後会員証（賛助会員除く）をお送りします。情報処理学会の会員は、個人会員と賛助会員から構成されています。

### 個人会員

- 正会員：当学会の中心的会員で、IT 分野に携わっているかまたは興味のある個人
- 学生会員：学校に在学中の個人
- 名誉会員：当学会の活動において特別な功績のあった個人

### 賛助会員

- 当学会の活動をサポートする法人

## ■ご入会いただくと、こんな良いことがあります。

### 1 最新技術を紹介する会誌「情報処理」が毎月お手元に届きます。

特集：スマートフォンプログラミング 2～iPhone/Android/Windows Phone によるセンサプログラミング～/ゲーム情報学/不自然言語処理～枠に収まらない「リアルな」言語処理～/研究会推薦博士論文速報/日本を元気にする ICT / CGM の現在と未来：初音ミク、ニコニコ動画、ピアプロの切り拓いた世界/コンピュータグラフィックスの新展開/大学教育の質保証/スーパーコンピュータ「京」/金融市場における最新情報技術/コンシューマが切り拓くデジタル化社会の新しい潮流/観光情報学/電子書籍の未来、他

### 2 実務の現場で IT を実践する皆様に向けた論文誌「デジタルプラクティス」が年 4 回お手元に届きます。

特集：CIO は決断する（1 月刊行）/高度 IT 資格制度（4 月刊行）/減災 ICT（7 月刊行）/情報が観光を創る・磨く・鍛える（10 月刊行）

### 3 電子図書館（情報学広場）で「情報処理」の過去の記事を見ることができます。

### 4 「連続セミナー」に会員価格（7,000 円お得）で参加できます。

時代に即しかつ技術の先進性に富んだ内容をテーマに、その分野の第一線で活躍している講師を招いて年数回にわたり開催しています。2012 年度は「ビッグデータとスマートな社会」をテーマに、6 回の開催があります。

### 5 ホットピックスに対応する「シンポジウム・セミナー」（5,000 円以上お得）や「研究会」に会員価格で参加できます。

インターネット、E ビジネス、セキュリティ、ユビキタス・モバイル・情報家電・組込み、ディベンダブルシステム、低消費電力化、リコンフィギャラブルプロセッサ、グリッド、UML・オブジェクト指向・アスベクト指向、エージェント、セマンティックウェブ・XML・データマイニング、マルチメディア、エンタテイメント・バーチャルリアリティ、e-ラーニング、バイオインフォマティクス、バイオメトリクス、量子コンピューティング・DNA コンピューティング、進化的計算・複雑系、ITS、金融工学・経済物理

### 6 出版図書が会員割引で購入できます。

IT Text シリーズ、英文図書 Advanced Information Technology シリーズ、日本のコンピュータ史等

他にも会員向けサービスがたくさんあります。詳細は学会 Web サイトをご覧ください。



2012 年

ホット  
トピックス

お問い合わせは、  
一般社団法人 情報処理学会 会員サービス部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F  
Tel.(03)3518-8370 Fax.(03)3518-8375 mem@ipsj.or.jp

## 「ソフトウェアジャパン 2013」企画運営

### 一般社団法人 情報処理学会 ITフォーラム推進委員会

委員長 中野美由紀 (東京大学)  
副委員長 赤津 雅晴 ((株)日立製作所)  
委員 諏訪 良武 (ワクコンサルティング(株))  
萩川 友宏 (筑波大学)  
位野木万里 (東芝ソリューション(株))  
掛下 哲郎 (佐賀大学)  
宮崎 義文 (イー・パフォーマンス・ネクスト)  
茂木 強 ((独)科学技術振興機構)  
黒橋 禎夫 (京都大学)

### 一般社団法人 情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2013プログラム委員会

委員長 岩野 和生 (三菱商事(株))  
副委員長 丸山 宏 (大学共同利用機関 情報・システム研究機構統計数理研究所)  
幹事 中野美由紀 (東京大学)  
赤津 雅晴 ((株)日立製作所)  
委員 諏訪 良武 (ワクコンサルティング(株))  
萩川 友宏 (筑波大学)  
位野木万里 (東芝ソリューション(株))  
掛下 哲郎 (佐賀大学)  
宮崎 義文 (イー・パフォーマンス・ネクスト)

### 一般社団法人 情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2013 実行委員会

委員長 寺中 勝美 (NTTソフトウェア(株))  
委員 中野美由紀 (東京大学)  
赤津 雅晴 ((株)日立製作所)  
吉野 松樹 ((株)日立製作所)  
山室 雅司 (NTTソフトウェア(株))  
串田 高幸 (日本IBM(株))  
位野木万里 (東芝ソリューション(株))  
折原 良平 ((株)東芝)  
鳥居 悟 ((株)富士通研究所)  
松井 充 (三菱電機(株))  
岡田 勲 (日本電気(株))

ソフトウェアジャパン 2013 の開催にあたりまして、本会議の開催趣旨にご賛同をいただきましたスポンサー様、サポーター様ならびにご協賛、ご後援をいただきました関係省庁、団体様、誠にありがとうございました。  
ここに厚くお礼申し上げます。

SUPPORTERS

一般社団法人情報サービス産業協会



株式会社CIJ



東京工科大学



国立大学法人京都大学 情報学研究所



NPO法人位置情報サービス研究機構



ヤフー株式会社



ニフティ株式会社



鉄道情報システム株式会社



オープンリソース株式会社



オープンワークス株式会社



日本電信電話株式会社



株式会社NTC



NTTソフトウェア株式会社



財団法人九州先端科学技術研究所



株式会社日立システムズ



富士フイルムソフトウェア株式会社



新日鉄住金ソリューションズ株式会社



株式会社うえじま企画



ガートナージャパン株式会社



東芝ソリューション株式会社



NTTアドバンステクノロジ株式会社



三菱電機株式会社



株式会社うえじま企画

三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社

国立大学法人大阪大学大学院情報科学研究科

リコーITソリューションズ株式会社



南山大学 数理情報研究センター



三菱電機情報ネットワーク株式会社



三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社



三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社

国立大学法人電気通信大学大学院  
情報システム学研究科



慶應義塾大学 環境情報学部



株式会社KDDI研究所



神戸市



メディア協賛

ITmedia エグゼクティブ



Computerworld



CIO Online



株式会社リックテレコム  
「月刊コンピューターテレフォニー」



記載の名称・ロゴは、各社・団体の商標です。掲載は申込み順です。